議長　副議長　局長　GL　係　回覧

様式第１号

令和　１年１０月　９日

真庭市議会
議長　　古南源二　殿

真庭市議会議員　　小田康文　　印

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

１　区　　分　　調査研究　　研修会　　~~要請・陳情活動~~

２　訪　問　先　　11月 7日 霧島市国分体育館
11月 8日 霧島市国分体育館、分科会
鹿児島県霧島市国分清水３０９
鹿児島県霧島市国分清水３０９他

３　内　　容　　第81回全国都市問題会議に参加
上記分科会に参加、現地視察を実施

真庭市の事業をSDGsの理念と結び付け、真庭版SDGsの取組を「SDGs未来杜市」の取組として全国に発信しながら、「真庭ライフスタイル（多彩な真庭の豊かな生活）」の実現に向けている施策の整合性を検証したり、さらなる施策に実施、改善により少子高齢化、人口減少を抑制するための知見を得るために参加する

４　行　　程　　別紙のとおり

５　事務局から訪問先への依頼　　~~必要~~　・　不要

（注）複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

参加議員名簿

森真会
小田康文、庄司史郎、大月説子、岩本壯八、妹尾智之

真庭市議会 受 '19.10.-9 付 7

令和元年 8月 5日現在

第81回全国都市問題会議　旅程表（仮）

11月 6日（水）	出発	13:30	落合総合センター駐車場	
			175.5km 2h15min	
	到着	15:45	伊丹空港	
	大月、妹尾、小田はグリーン 庄司、岩本はオレンジ			
	出発	16:45	伊丹空港	NH549
		16:40	羽田空港	NH627
	到着	18:10	鹿児島空港	NH549
		18:35	鹿児島空港	NH627
	鹿児島空港で5人が集合する			
	出発	18:55	鹿児島空港	鹿児島交通 63便
	到着	19:43	天文館バス停	
	到着	20:00	鹿児島ワシントンホテルプラザ	8/3に予約済み
			鹿児島市山の口町12-1	
			099-225-6111	

11月 7日（木）	出発	7:30	天文館電停	
				市電2系統
	到着	7:40	鹿児島中央駅	
	出発	7:45	鹿児島中央駅西口	
				シャトルバス
	到着	8:45	霧島市国分体育館	
		8:30	受付開始	
		9:30	開　会	第81回 全国都市問題会議 一日目
		17:00	閉　会	

	出発	17:15	霧島市国分体育館	
				シャトルバス
	到着	18:15	鹿児島中央駅西口	
	出発	18:22	鹿児島中央駅	
				市電2系統
	到着	18:36	天文館電停	
	到着	18:50	鹿児島ワシントンホテルプラザ 鹿児島市山の口町12-1 099-225-6111	8/3に予約済み

11月 8日 （金）	出発	7:30	天文館電停	
				市電2系統
	到着	7:40	鹿児島中央駅	
	出発	7:45	鹿児島中央駅西口	
				シャトルバス
	到着	8:45	霧島市国分体育館	
		8:30	受付開始	
		9:30	開　会	第81回 全国都市問題会議 二日目
		11:50	閉　会	
	出発	12:15	霧島市国分体育館	行政視察
				シャトルバス
	到着	16:30	鹿児島空港	
	出発	18:40	鹿児島空港	NH552
	到着	19:55	伊丹空港	
	出発	20:10	伊丹空港	
	到着	22:25	落合総合センター駐車場	

議長　副議長　局長　GL　係　回覧

様式第２号

報　告　書

令和元年年　12 月 10 日

真庭市議会議長　古南　源二　殿

報告者　真庭市議会議員　氏名　小田　康文　印
庄司　史郎
大月　説子
岩本　壮八
妹尾　智之

下記のとおり政務活動費を使用して　調査研究・研修会・要請陳情活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1　日　　時	
	自　令和元年　11　月　7　日（午前・午後）　9　時　30　分
	至　令和元年　11　月　8　日（午前・午後）　15　時　00　分
2　場　　所	
	第81回全国都市問題会議：霧島市国分体育館
	行政視察：黒酢のかくいだと薩摩錫器工芸館岩切美巧堂
3　用　　件	
	第81回全国都市問題会議に参加し、テーマ「防災とコミュニティ」について学ぶ
4　概　　要	
11月7日	
9：30　開会挨拶	全国市長会会長　相馬市長　立谷　秀清 開催市市長　鹿児島市長　中重真一 来賓祝辞　鹿児島県知事　三反園　訓
9：50　基調講演	鹿児島の歴史から学ぶ防災の知恵 志學館大学人間関係学部教授　原口　泉

真庭市議会 受付 '19.12.10 7

11：00　主報告　　霧島市の防災の取り組み　　ー火山防災ー
霧島県霧島市長　中重真一

13：10　一般報告　災害とコミュニティ：地域から地域防災力強化への答えを出すために
尚　学院大学人文社会学群長　田中　重好

14：40　一般報告　平成30年7月豪雨災害における広島市の対応と取り組み
広島県広島市長　松井　一實

15：50　一般報告　火山災害と防災
防災科学技術研究所火山研究推進センター長　中田　節也

17：00　終了

11月8日

9：30　パネルディスカッション　テーマ「防災とコミュニティ」

コーディネーター：追手門学院大学地域創造学部地域創造学科長・教授
田中　正人

パネリスト　専修大学人間科学部教授　大矢根　淳
香川大学地域強靭化研究センター特命准教授　礒打　千雅子
霧島市国分野口地区自治公民館長　持留　憲治
静岡県三島市長　豊岡　武二
和歌山県海南市長　神出　政巳

11：50　閉会式　次期開催市市長挨拶　青森県八戸市長　小林　眞
閉会挨拶　後藤・安田記念東京都市研究所理事長　小早川　光郎

午後行政視察：黒酢のかくいだと薩摩錫器工芸館岩切美巧堂

第81回全国都市問題会議は霧島市国分体育館で開催されました。桜島が駅の前に見え、煙を上げて小噴火を繰り返しており、駅周辺には灰が多くたまっており、生活への影響が深いと感じました。鹿児島駅から体育館までは、シャトルバスで50分でした。

活動を続ける桜島。手前が鹿児島市内です。

全国都市問題会議は、霧島市国分体育館でありました。国分体育館は、鹿児島駅から30分ぐらいの高台にあり、体育館の外にはお土産品売り場が軒を連ねてテントを出していました。

中でも本場芋焼酎が飛ぶように売れていました。お昼には、さつま揚げ、鹿児島牛の焼肉や黒豚を使用した豚汁が無料でふるまわれました。

東日本大震災の際に、豚汁の炊き出し応援をした大釜の実演・展示もされていました。

会場が霧島市国分体育館ということで、広いためパワーポイントも見えづらく、演者の声も聞き取りにくく、椅子も狭く学習条件が最悪でしたが、テーマが「防災とコミュニティ」ということもあって会場一杯の大勢の参加がありました。

＜課題解説＞：　防災とコミュニティ

日本全体の年降水量は1,700ｍｍで、世界平均の約2倍に達し、集中豪雨、台風の来襲、豪雪等の自然災害が多発している。さらには、南海トラフ巨大地震や首都直下地震、気象災害など、今後も大きな自然災害の発生が懸念されている。

人々の災害への関心は、阪神・淡路大震災を契機に「自助」「共助」「公助」の取り組みが着目されるようになった。中でも、共助によって70％に近い住民が助け出されたことから、「公助」の限界も認識されることとなった。

近年、災害を事前に予防する力と、しなやかに災害を乗り越える力、すなわち「レジリエンス」を高めておく必要があると指摘されるようになった。このレジリエンスを高めるにあたっては、地域の資源を的確に把握し組み合わせていける、地域コミュニティにおける住民の結束力である。

コミュニティを「共属意識と連帯感を拠り所とする集団」と捉えれば、防災に関わるコミュニティは、狭い地域性を有する地域コミュニティばかりではない。自治体同士の連携も一種のコミュニティと捉えることができる。鹿児島県では、霧島山を取り巻く5市2町で構成される「環霧島会議」を開催して、防災相互応援協定の締結や霧島火山防災マップの作成に取り組むなど県境を越えて連携を図っている。

地縁型のコミュニティ組織が行っている活動の上位に「防災」があり、特に自主防災組織の8割が自治会・町内会を単位としている。しかし、少子高齢化や地域への帰属意識の希薄化が進行する中で、都市部・農山村を問わず担い手不足に悩んでいる。こうした中、都市内分権組織として、小学校区や中学校あるいは旧町村といった単位で、協議会型の住民自治組織を設置するようになってきている。

小学校や中学校も、地域コミュニティ単位の防災に当たっては欠かせない存在である。学校が避難所として機能を果たすことも多く、避難所開設訓練、防災機器材の備蓄、災害発生時の子供の引き渡しなどを円滑に進めるためには、日ごろからの地域内での関係構築が重要である。

事業所や産業界では、自らの施設で自主防災体制がとられているが、大規模災害の際には、住民と協力して消火活動を行ったり、事業所の一部を避難所として提供したり、倉庫防を防災機材の保管場所として提供するなど、自主的に地域コミュニティの一員として災害対応に当たる事業所も増えてきた。

＜地域コミュニティによる防災の取り組みと課題＞

1. 地区防災計画等の策定

2014年の災害対策基本法改正で盛り込まれたのが地域防災計画制度である。これは、商店街や学校区、複合ビルといったコミュニティレベルで、住民や企業などによる自発的な防災活動について計画を策定するものであり、防災における「共助」を強化するための制度として位置づけられる。が、策定は義務ではなく、地域コミュニティから自発的に提案する形をとっている。

災害発生時の初動対応においては、地域コミュニティには、地区住民の安否確認、人命救助、初期消火活動、安全な避難場所への誘導、避難所の開設・運営といった役割が求められる。その際に、地域資源の適切な配分と連携ができれば、初動対応が短時間で達成できる。また、消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律に

定められている「地域防災力を充実強化するための具体的な事業に関する計画」の策定においても、その地域ならではの防災に関する役割分担や連携・協働が進むことが期待されている。「いつ」「だれが」「何をする」を協議して防災行動計画（タイムライン防災）は、風水害のように一定の段階・期間がある災害では効果を発揮する。

2. 防災教育等を通した防災意識の醸成

地域コミュニティにおいては、地域に属する一人ひとりの防災意識を向上させ、地域の防災力を強化するために、防災教育や防災訓練が行われている。これらを通じて、地域の災害履歴や防災に関する様々な知識を習得するとともに、災害に立ち向かう態度や安全な避難や的確な救命救急などを実践できる技能を身に着けることができる。近年の大規模災害以降は、「稲むらの火」や「津波でんでんこ」といったエピソードを通じて、地域の被災経験の伝承が注目され始めている。

3. 要配慮者を含む多様な人々への対応

市町村に作成が義務付けられた避難行動要支援者名簿については、すでに殆どの市町村で作成が進んでいる。今後は、外国人・ペットと人々に生活している人、移動が困難な状況にある人、など多様な人々に着目した取り組みが必要性である。

4. 防災の担い手の確保・育成

地域における防災組織としては、自主防災組織、消防団、水防団、防火・消防クラブ等がある。中でも、自主防災組織は、防災訓練の実施、防災知識の普及活動、防災巡視、資機材等の共同購入等を行っている。防災活動の担い手不足や防災活動のリーダーの確保・育成困難が問題となっている。高齢化や共働き世帯の増加、活動の負担感の大きさなどの要因が考えられる。防災士の資格取得や学生消防活動認証を通じた担い手不足への対応など人材育成を進めつつ、地域の実態を踏まえた組織の見直しを模索する必要がある。

5. おわりに

災害時のレジリエンスを高めるためには、事前の防災に関する取り組みは勿論のこと、街づくりや福祉的な活動を含めた様々な活動に日常的に取り組むことによって、多様なネットワークを築いていくことが有効な手段となる。

＜11月8日午後行政視察：黒酢のかくいだと薩摩錫器工芸館岩切美巧堂＞

午後からは、まず黒酢工房の「かくいだ」を訪問した。こちらは、日本初の黒酢レストランで、昼食に黒酢料理をいただいた。鹿児島市は、観光業、畜産業が盛んであるが、葉物野菜農家は少なく、鹿児島湾に面したかくいだでは多くの黒酢が生産されている。健康ブームも後押ししてか、店内は大勢の方でにぎわっていた。

かくいだ黒酢は、鹿児島・福山の自然が作る「長期熟成」玄米黒酢。醸造年数や原料、気候、かめ壷によって出来栄えが違い、実は「人の力」が最も重要で、匠といわれる職人が製造に携わっている。3年以上の熟成期間を経ることでアミノ酸量が増え、

コクや旨みが深まっていくそうで、販売されている黒酢は全て3年以上熟成したもの。しかし、黒酢が熟すまでには時間がかかり、生産効率が悪いのではとの思いがした。

次に岩切錫工芸館を見学した。こちらでは、まず錫の板を使用してお皿づくりに挑戦した。工房では、匠職人が錫を使った工芸品を作っている様子を見学した。また、錫の工芸品の展示販売も行っていた。技の継承が課題だろうと感じつつ視察を終了した。